



令和7年度 第1回 地域連携会議

「地域と共に歩む グループホームを目指して」

日時：令和8年1月25日 15:00～16:00

場所：グループホームドリームハウス2号館

発表者：代表・管理者 吉松慶一郎

(会議の内容)

1. 会議の目的

(地域連携会議の設置経緯、目的・役割)

2. 施設のご紹介

(沿革、施設・サービスの概要)

3. 利用者様の状況

(障がいについて、日常生活の様子)

4. 経営状況の報告

(食費、水道光熱費、収支の状況)

5. 防災関連

(BCP業務継続計画の内容、防災備品の設置状況等)

1-1.会議の目的:地域連携会議について

～なぜ?何のために集まるのか?～

★設置の経緯(なぜ始まったのか?)

①「閉ざされた空間」からの脱却

これまでグループホームは、プライバシー保護の観点から地域との接点が希薄になりがちで、「中で何が行われているか分からない」という側面がありました。

②国の制度改革(令和6年度報酬改定)

虐待・不正等の事例も多くなり、事業所の透明性を高め、サービスの質を確保するために、厚生労働省により設置が義務付けられました。

(令和7年度より完全義務化)。

→法律で決まったからやる、というだけでなく、私達としても『**地域の一員として認めて頂きたい**』という強い思いがあり、この場を設けさせて頂きました!

1-2.会議の目的(目指すゴール)

①「見える化」による信頼構築

活動内容や経営状況を包み隠さず報告し、地域の皆様に安心していただくこと。

②第三者の目による質の確保

虐待や不適切なケアを防ぐため、外部の方(皆様)の視点を入れて風通しを良くすること。

③「顔の見える関係」づくり

災害時や困った時に助け合えるよう、日頃から地域とのつながりを作ること。

1-3. 会議の役割(皆様をお願いしたいこと)

この会議は、一方的な報告の場ではありません。以下の3つが主な役割です。

①活動報告の共有

日常生活、行事、事故報告などを共有します。(HP等)

②評価と助言

「もっとこうしたら？」等のご意見や、地域の情報をいただきます。

③お困りごとの相談

地域でのトラブルや災害対策について一緒に考えます。

2-1. 施設のご紹介

(代表者: 吉松慶一郎 略歴)

- ・1961年埼玉県蕨市生まれ、地元の公立小中学校・県立春日部高校卒業後、東京理科大学薬学部卒業、同大学院修士課程修了。
- ・薬学研究者を目指していたが、塾のアルバイトがきっかけで教師を目指し、教育免許を取得して日大三高の化学教師となる。
- ・その後、社会経験の必要性を痛感し、グリコ乳業(現江崎グリコ)に就職、結局教職には戻らず定年までに、中央研究所、工場品質管理、商品開発、営業、総務人事を経験。在職中にサラリーマン大家としてアパートや戸建てを数棟所有していたが、少子高齢化で空室対策に不安を感じる。
- ・退職と同時にわおんグループの「社会問題になっている空き家を活用して、行き場のない精神患者や引きこもりの方への安全安心な住まいを提供、保護権・保護猫をホームで飼うことで社会貢献ができる。国からの給付金で安定的な経営ができる。」ということに強く魅力を感じてグループホーム事業経営のフランチャイズに参加。最後の単身赴任先の福岡でグループホームを1棟目を開設、現在に5棟の運営管理に至る。

★保有資格: 介護福祉士、薬剤師、

その他: 教員免許、環境計量士、公害防止管理者、衛生管理者、危険物取扱主任者、普通自動車、自動二輪、フォークリフト等多数。

(施設の沿革)

2020年10月: ドリームハウス1号館開設

2021年9月: ドリームハウス2号館開設、サテライト開設(現5号館の1室)

2022年8月: ドリームハウス3号館開設

2023年10月: ドリームハウス4号館開設

2024年6月: サテライトを廃止してドリームハウス5号館開設

現在に至る。(定員: 23名、現在入居22名)



1号館(女性棟4名)1室空室



2号館(男性棟5名)満室



3号館(女性棟4名)満室



4号館(男性棟5名)満室



5号館(女性棟5名)満室

2-2. 施設の地図



2-3. 施設のサービスの概要

(スタッフ体制)

- ・代表・管理者: 吉松慶一郎 ・サービス管理責任者: 古賀 千津子 ・世話人正社員: 岩里真理
- ・世話人・夜勤者・生活支援員: 16名

(グループホーム形態)

介護サービス包括型

※利用者は原則、昼は日中活動をし、夕方帰って共用場所で食事、入浴をし、専有の居室で過ごす形式。

(サポート体制)

日勤: 1号館・3号館は週2日 11:00~20:00

夜勤: 18:00~翌9:00 (夕食提供、相談・雑談、夜間の見守り、共用部の清掃、朝食提供、出勤見送り)

★入居時に各人のアセスメントで本人の要望を聞き取りし、個別支援計画を作成します。

★月1回 個別面談を実施してお困りごとや支援の修正等を行います。

(特典・特徴)

★全室ペット可、従業員もペット同伴可能。

★月1回無料の通院等送迎を実施。

★毎週木曜日はフードバンクの食材を無料配布しています。

★お誕生日にはお好みの特別食(ホールケーキ、ピザ、すし等)をご用意しています。

★随時イベントをしています。



フードバンク(毎木曜日)



お誕生日



利用者様の愛犬と花火大会

3. 利用者様の状況

★そもそも障がいとは？★

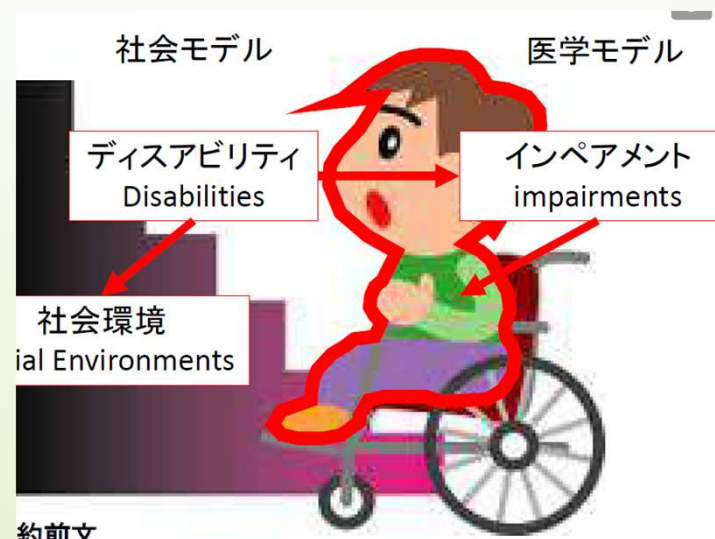
～「個人的な問題」から「社会との関係性」へ～

1. 障がいの捉え方(医学モデルから社会モデルへ)

昔は「障がい=その人の病気や機能不全」(個人の問題)と考えられていました(医学モデル)。

しかし現在は、「心身の機能」と「社会の壁(バリア)」がぶつかった時に生じる「困りごと」こそが障がいである(社会の問題)という考え方(社会モデル)が世界共通のルールです。

- 例: 車いすの人がお店に入れないのは、
- 「歩けないこと」(個人の問題=医学モデル)が原因ではなく、
- 「入口の階段(社会の壁)」(社会の問題=社会モデル)が原因です。
- 段差をなくせば、そこにある「障がい」はなくなるという考え方。



2. 障がいの主な3つの種類

障がいは大きく3つに分けられますが、重複している場合もあります。

①**身体障がい**: 手足の不自由、視覚・聴覚の障がい、内部障がい(心臓や腎臓など)など。

②**知的障がい**: 読み書きや計算、金銭管理など、**知的機能の発達に遅れ**があり、生活に支障がある状態。

③**精神障がい**: 統合失調症、うつ病、双極性障害など。**脳機能の不調やストレス等**により、心のコントロールが難しくなる状態。

(※**発達障がい**(ADHD**注意欠陥多動性障害**ASD:**自閉症スペクトラム**など)もここに含まれることが多いです)

発達障害は生まれつきの脳の機能の偏りが原因であり、「親のしつけ」や「本人の努力不足」が原因ではない。

3. 私たちに見えない「壁」と「合理的配慮」: →支援方法が利用者様によって違う!

身体障がいと違い、**精神・知的障がいは「外見からは分かりにくい」という特徴**があります。

•**見えない壁**: 「偏見の目」「理解不足」「複雑なルールの案内板」などが、彼らにとっての大きな壁になります。

•**合理的配慮(ごうりてきはいいりょ)**: 「特別扱い」をするのではなく、みんなと同じように生活できるように

•少しでも手助けや工夫をすることを言います。(例:イラストで説明する、雑音を遮断する、1つずつ伝える等)

グループホーム ドリームハウスの利用者様の現状

1. 障がい区分 22人の内訳

→ほとんどが精神の方

身体	知的	精神	合計
(1)	(3)	22	22

2. 障がい者支援区分 22人の内訳

軽度 ←————→ 重度						平均
区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
0	9	10	2	1	0	2.8

3. 日注活動の有無

日中あり	日中なし	在宅	失業保険
18	1	2	1

4. 虐待・身体拘束事例 0件

5. ヒヤリハット事例 毎月1-2件あり(コロナ発病、誤嚥性肺炎で救急搬送、オーバードーズ等)

6. 外部からの苦情事例 2025年8月に庭の雑草による害虫の発生の苦情→業者対応



4. 経営状況の報告

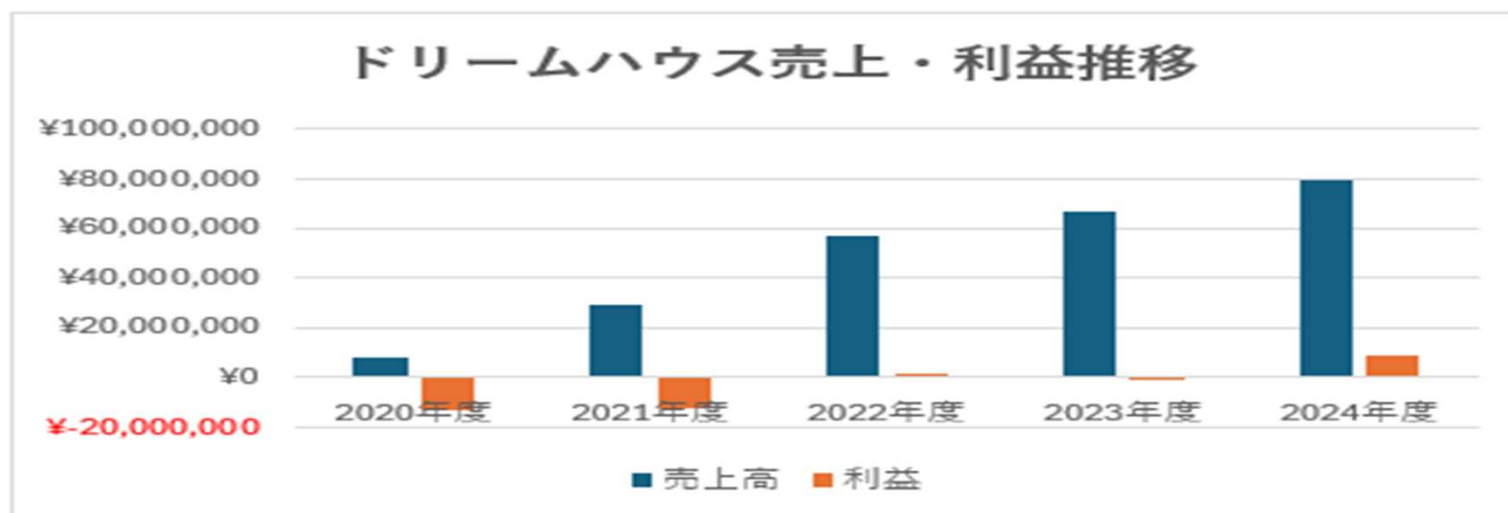
●売上高と利益の推移

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
売上高	¥7,905,893	¥28,886,217	¥57,071,550	¥66,695,954	¥79,669,771
利益	¥-12,717,922	¥-12,165,510	¥1,821,995	¥-397,557	¥9,050,368

●食材料費：朝食300円、昼食400円、夕食500円(2025年7月より100円値上げ)

	徴収額	実費	差額	差額の精算
2023年	¥1,577,559	¥1,581,822	¥-4,263	未実施
2024年	¥1,946,146	¥2,052,728	¥-106,582	未実施
2025年(半期)	¥1,285,517	¥1,334,101	¥-48,584	未実施

※事業所の損金算入もしくは福岡市物価高騰対策支援金にて充当



5. 防災関連

5. 災害用備品・・・前提条件を規定して何が必要かを考えて準備・・・今年度中に配備、**浸水規定でなるべく高い位置に保管**

- ①食料：1日3食3日分 0食×（利用者数+1（スタッフ）） 利用者4人なら 0 X（4 + 1）= 45食必要！
 ※各館翌日分のヨシケイの食事やFB食品・冷蔵庫の食品で1日分は対応。（カセットボンベ配備、お湯や加温）
 ※あと2日分は備蓄のお米を非常用電源で炊き出し、各館レトルト食品（5年保存のカレー30食、スープ16食各1セット）で対応。



②水：1日500ml ×3本×3日 = 9本/人 利用者5人+スタッフ1人なら54本必要！ ★GH1・3・4は都市ガス→カセットボンベ設置
 5年保存水



③非常用トイレ 1日5回×3日 = 15袋/人 利用者4人なら60袋必要
 白い袋を敷いて黒い袋をする、用を足したら凝固剤入れて固まったら廃棄
 ★GH2,5 はプロパンなので、災害時は
 元栓の点滅ボタン押で復旧使用可！



④蓄電池 ⑤発電機付きラジオ 各号館に1台設置、ライト手回し充電可能



★BCP(業務継続計画)の整備状況

- ・令和6年度より福祉施設にも義務化され、「自然災害編」と「感染症対策」の2つを作成済
- ・年2回の研修と訓練が義務化されており、毎月のミーティング時に年2回訓練実施。

★その他

- ・消防設備点検 各号館年2回実施
- ・避難訓練 年2回実施
- ・避難確保計画



おわりに・・・【地域の皆様へのお願い】

私たちのグループホームには、主に精神・知的障がいのある方が暮らしています。

「挨拶が苦手」「急な変化に弱い」といった特性があるかもしれませんが、地域の皆様の「ちょっとした理解」や「温かい見守り」があれば、その「障がい(困りごと)」は小さくなります。

共に暮らす隣人として、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。